

1 2 3 4 5

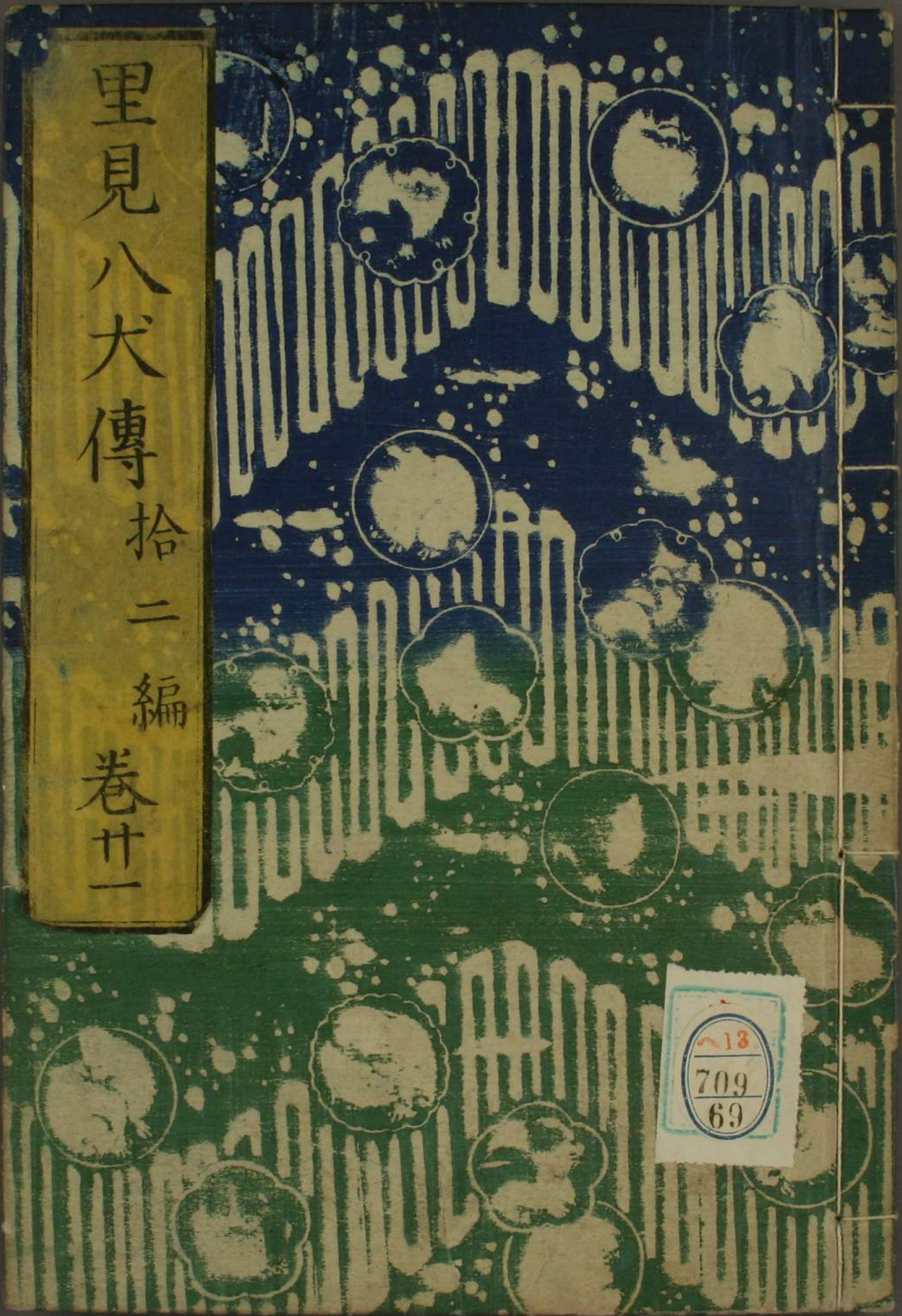
JAPAN

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

TAMA

1m 3 4 5 6 7 8 9 10

里見八犬傳 拾二編 卷十一



門遠  
號  
卷

13  
709  
69



明治年  
月  
上  
講

南總里見八犬傳第九輯卷之二十一

東都曲亭主人編次

第百三十回 南總里見侯白濱小旅櫻を葬

却説信乃毛野道節莊从太角現八小文吾親兵衛們の八犬士へ、大岱四郎照文主僕と俱の諸川の驛稍盡處ある飯店より寄て書飯と喫果を去向の便宜を相譚ふ或ひは南宿より船を乘りて安房へ渡ふ順路を陸を西くより速走るも庵主の先君李基朝臣の御送骨と駄糞の近を食す風濤の險一毫を今や不犯矣し且穂北の一謀も然らず皆共侶ふ路と武藏へ取る手ハ开ひ迂遠を棄て憶む時日遅滞せば然らず君命と家を留る者少似う。と思へも夏候と有種の義あるを今番かく末那病患の安危を向去へ开も不義今公道を宗とせば人情が缺くる所無。又人情を先ふせ公の道立まつあせす。と思ひ難む衆議尚區々う

け。道即單決斷。餘人左まれ右もあれ。那永垣落點。我復讐言の帮助を做す。恩義を  
 奉る。斎れど。順路就く。義ある。非如一晌。天日。安房ある。然る。不義の士ある。  
 稲村殿の。愛憐せんや。咱们の穗北へ立寄る。今。別議。信と毛野。説を喜んで。俱  
 大照文。談を。目。今。县。不。听れど。大山。欲す。ト。人情。はれ。も。寒。己。と。あ。ず。ふ  
 在り。因て。我們。思惟。小庵主。並。小庵主。年來我黨。聚。食。君。不。薦。企。思。欲。方。本意。  
 遂。大功。例。る。先君。御送骨。と。安房。死。伴。做。矣。猶。一層。大功。我們。招。會。  
 君。命。より。重。かる。倭。庵主。蟹崎。主。御送骨。と。衛。奉。て。安房。赴。命。勿論。か。欲。却。我們。  
 亦。一。兩。日。身。暇。賜。そ。那穗北。夏。仍。許。立。寄。る。と。允。され。公。道。人。情。兩。余。缺。無。く。せ。う。ご。  
 ら。但。一。大江。親。兵。衛。自。餘。の。七。人。と。同。ド。モ。他。も。亦。招。會。の。使。役。庵。主。不。俱。去。返。命。序。上。  
 べ。や。ひ。そ。と。説。ま。を。親。兵。衛。推。禁。せ。开。ち。の。よ。と。多。く。御。送。骨。の。あ。も。進。退。庵。主。の。上。下。在。り。咱们。  
 七。個。の。義。兄。弟。と。相伴。を。安。房。還。れ。る。御。説。初。より。美。ま。獨。別。れ。那。里。の。え。や。且。那。永。垣。

落點の。義。僕。豫。写。知。れ。ば。對。面。せ。ま。思。ひ。よ。か。ま。便。宴。本。意。稱。る。そ。恩。至。也。と。怨。表。莊。  
 人。も。現。る。大。角。も。小。文。五。も。共。侶。か。點。頭。で。大。山。大。塚。大。阪。の。意。見。ゆ。と。大。江。の。説。論。人。情。不。似。く。公。  
 然。入。庵。主。海。容。あ。れ。と。異。口。同。様。大。廣。幾。衆。談。稍。一。決。き。り。登。時。大。火。沈。吟。な。頭。と。抬。げ。  
 ち。點。頭。諸。彦。の。情。願。寔。不。以。す。倭。の。下。と。上。と。料。系。似。れ。る。兩。館。人。及。彼。御。孝。順。小。  
 ど。う。も。其。先。君。の。御。送。骨。改。葬。の。義。不。そ。必。し。七。个。日。の。死。齊。戒。あ。る。然。學。折。う。和。殿。達。を。  
 骨。と。衛。奉。り。一。日。ゆ。あ。く。安。房。ま。る。そ。と。兩。館。不。信。え。あ。が。御。改。葬。の。事。果。て。更。ふ。又。和。殿。達。  
 旅。宿。不。赴。た。相。俱。と。然。而。見。參。不。入。奉。ら。ベ。迎。東。不。皆。級。あ。る。吉。凶。混。乱。ま。づ。い。の。義。ひ。と。同。意。  
 そ。が。和。殿。達。の。地。方。よ。し。松。僧。們。不。相。別。れ。穗。北。の。御。を。過。る。折。水。垣。許。立。寄。て。逗。留。十。四。五。日。及。  
 び。ま。松。僧。們。又。安。房。あ。り。あ。と。和。殿。達。と。迎。の。與。穗。北。不。造。そ。對。面。せ。ん。其。時。候。過。て。も。音。耗。る。  
 く。各。位。の。那。里。と。去。て。上。總。ま。で。來。て。館。山。主。城。入。て。等。の。然。だ。送。約。束。を。迎。接。岳。語。ま。ぐ。

さう。こひき。ひつよ。ねんぢ。きかたあ。とくせりあくべゑ。トよ  
わくを。這譲。什麼。叮寧。ふ悄語。示せ。道節。親兵衛。自餘。大士も。詫び兼て。その議定。桂妙。  
親兵衛。と代四郎。は。這回。新。増加。を。我們。七名。招會の。差使。で。我們。安房。へ。進退を  
俱。安え。私似て。私。う。庵主。奉。我黨。を。御道す。一椿事。は。是。而。館の。お。與。食。ど。御。送。骨。を。先。ふ  
を。臣等。と。後。お。せ。る。が。則。君臣。上下。の。階級理。の。當然。と。う。べ。孰。教諭。の。従。ぐら。え。皆。あ。る。  
主。們。か。隸。ら。一期。の。面目。お。の。上。す。本意。え。り。と。不勝。の。詫び。然。ア。を。と思。大士。们。有。愁。る。折。ゆ。孝  
嗣。次。國。太。鯉。云。う。鷹。命。矣。又。云。云。云。と。い。ひ。生。て。送。憾。也。方。そ。う。り。當。下。磐。崎。照。文。々。大。士。ゆ。つ。ち。高  
ひ。く。鄉。向。も。告。一。も。み。う。い。日。卑。職。紀。二。六。を。り。那。永。埴。許。訪。セ。ー。折。東。人。夏。乃。の。病。患。の。重。毒。う。ま  
と。お。も。お。も。き。く。あ。る。あ。せ。き。ソ。ニ。こ。お。も。く。り。ま。ま。ハ。お。も。が。れ。き。下。ろ。く  
吉。の。堀。及。和。殿。達。稍。久。那。里。止。宿。の。顛。末。ま。少。知。て。ひ。べ。ひ。老。が。ま。立。寄。て。安。否。を。問。も。思。ひ。か  
とも。衆。議。一。決。して。略。異。見。が。今。番。の。素。懷。と。果。一。か。う。諸。彦。那。里。造。り。か。あ。の。意。と。傳。か。か。  
ふ。と。え。ま。い。ふ。の。そ。う。を。よ。え。ー。こ。の。く。み。と。こ。び。の。そ。う。を。よ。え。ー。こ。の。く。み。と。こ。び。  
と。り。う。懷。る。財。囊。よ。う。圓。金。一。裏。を。拿。む。ゆ。扇。見。を。開。ひ。ら。載。て。呻。諸。君。子。這。丸。金。今。番

倘幸い。和殿達の環會に臨時の費用を取せずとも。館より賜りて。伴當も夥兵門を八個み  
ちやせん。好雪と加え。主僕十七名。永垣許十四五日止宿。費用を。已前も雜費ヨヌク。宜く  
相計入る。と真發示して。件の金を。恭へく遞與を。八大吉阿とぞ。不忘。左を受せ。一  
度。小音を。商量。結果。道節が答る。親兵衛。隠ぐの外。必ず功め。ばら。臣等。有能者  
を。も。未。兩館不拜見せ。その義隨意。きよ。開ど。あて。八個の夥兵を。俱へて。穗北赴を。  
那人。人脚送骨の。併勿論。乞。欲。且。永垣落鮎。義士。よ。莊園。えくひ。非除十人。三千人。逗留  
客あれど。雜費ふ事。缺く。づ。も。ゑど。兩館の脚送骨。を。他們。み。傳。為。され。ば。這。現金。拜受  
率。他們。ふ。讓。與。へ。然。と。真人數。も。逗留。日。と。累。ね。那。五十子。と。忍。岡。の敵。の城内。ふ。洩。少  
え。又。禍鬼を。惹。まえ。その義。も。後。安。く。ね。伴當の。美。口。音。用。捨。と。願。けれ。うち。我。一個の  
愚。衷。素。あ。自。餘。七個の。義。兄。弟。情願。か。の如。く。れ。な。も。就。申。在。下。那。婚。翁。不。恩。義。あれ。ば。初。不。發



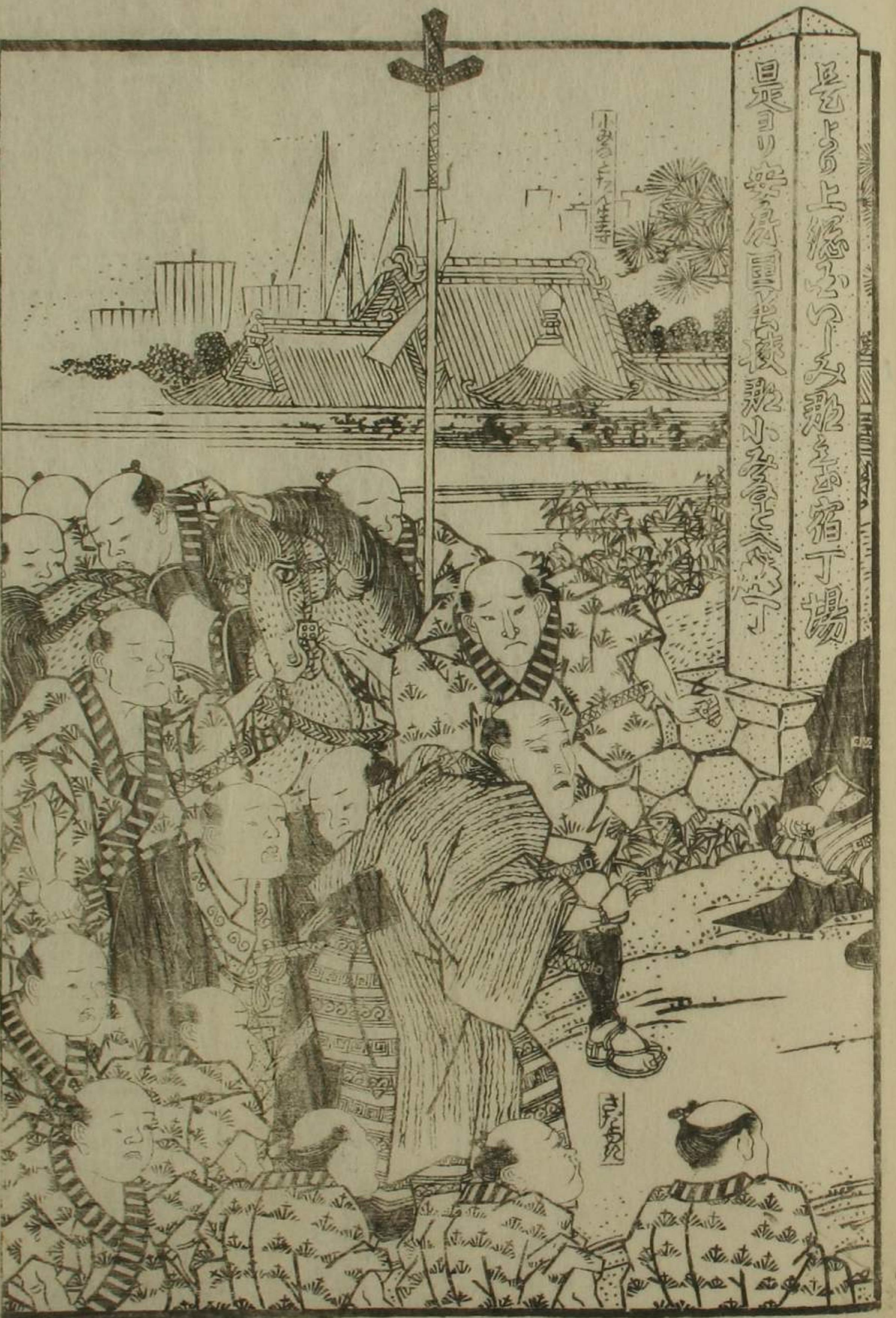
地ち造さうえ遠とお玉書ぎょくしょ一通いつう、龍田殿りょうでん老お侯こうへ獻けんれ。又一通いつう、稻村いなむら四家老しやうらう達だつ相あわせ達たつて尋たずねまよまよあふ。御送骨ごそうくの事こと、八犬士はっけんしの事こと見みもゆゆもせせ。如ごく詳くわ小字こじえああげげど。余よ餘よの又また箇か様よう々々と示しして書か翰はんを遞たま與よ。紀き二六にろく門もんをあらぬ果かくて快船かいせんを央おひうち乗のて安房あはと投なげて走はしまます。折おりも順風じゅんふうをうれ思おもひ。逃のが草くさく次の日にち稻村いなむらの城じゆうを届たまることを遁とお即そく、大照文だいしょうぶんの注進しゆしんの呈書ていしょと堀内ほりうち貞じん乃の不呈聞ふしんもん。事こと懲めが懲めがと宣あらわすをあぞ。四家老しやうらう也や仕つかはれ。但ただし其その書かと披ひ見みて、欲ほむと太おほきよよび財ざいて注進しゆしんの趣おもと義成ぎせい

主ぬし小字こじえああぐぐ。義成ぎせい感かん悦えつ笑わらうもや。後あと隨つづ即そく荒川あらかわ清澄きよすみ。大照文だいしょうぶんの使し役えき三名さんめいを差添さしだて、龍田城りょうでんじゆう遣し一いち。義成ぎせい寒さむ王おうも奇き小敬ごう且よ、大お不測ふそくの大功だこう。一方かた手てをを許ゆ。顧かの不賞ふしやう賞しょう。然しか先さき君きみの死骨しきつ迎むか並そな改葬かいざうの爲ため。稻村殿いなむらどのの意見いんべんを依よ。那な黒くろの處分しぶんを儘まんす。一いち兩りょうの程てい度ど。准備じゅんびを整そなひ。余よ程てい、大照文だいしょうぶん王おう僕ぼくの使し役えきを安房あはと詰つ。朝あさ関宿あさせきの道場どうじょうを立たて、連つづりふ路じゆ次しをととば。約莫よも二宿にしゆ許ゆ。やく上總路じゆぜんじゆをあゆゆ。稻村いなむら下し知しせられ。其その頭かしらの守まつ城じゆの頭人とうじんハ各ごく士卒しそつを出だ迎むか。曾そ侍し特とく淺うぶ。慄おの而て、大照文だいしょうぶんハ第四だいよん日ひ己おの牌ばい左側さく下し上總じゆぜんと

安房あはの封疆さくしやう。市河坂いちがいざかをあゆゆ。程てい小山こやまの龍田殿りょうでんの西侯にしこう。堀内ほりうち藏人くらわんじ貞じん乃の士卒しそつ並そな櫛くし。雜色ざくしよく。奴隸しやく。都つ二三百名隸し。寢ねて送骨ごと迎むか。不逢ふ。登時とうじ貞じん乃の大照文だいしょうぶんと一いち霎しや時じ其その邊へん邊へん。道場どうじょうを立たて寄よせて對たい面めんの折櫛せつくし。大照文だいしょうぶんの使し役えきよ達たつ。兩個ふたかずの夥兵くわいへいと紀き二六にろくと作つく。朝あさ上總路じゆぜんじゆを立たて、連つづりふ路じゆ次しをととば。約莫よも二宿にしゆ許ゆ。やく上總路じゆぜんじゆをあゆゆ。稻村いなむら下し知しせられ。其その頭かしらの守まつ城じゆの頭人とうじんハ各ごく士卒しそつを出だ迎むか。曾そ侍し特とく淺うぶ。慄おの而て、大照文だいしょうぶんハ第四だいよん日ひ己おの牌ばい左側さく下し上總じゆぜんと

主ぬし小字こじえああぐぐ。義成ぎせい感かん悅えつ笑わらうもや。後あと隨つづ即そく荒川あらかわ清澄きよすみ。大照文だいしょうぶんの使し役えき三名さんめいを差添さしだて、龍田殿りょうでん老お侯こうへ獻けんれ。又一通いつう、稻村いなむら四家老しやうらう達だつ相あわせ達たつて尋たずねまよまよあふ。御送骨ごそうくの事こと、八犬士はっけんしの事こと見みもゆゆもせせ。如ごく詳くわ小字こじえああげげど。余よ餘よの又また箇か様よう々々と示しして書か翰はんを遞たま與よ。紀き二六にろく門もんをあらぬ果かくて快船かいせんを央おひうち乗のて安房あはと投なげて走はしまます。折おりも順風じゅんふうをうれ思おもひ。逃のが草くさく次の日にち稻村いなむらの城じゆうを届たまることを遁とお即そく、大照文だいしょうぶんの注進しゆしんの呈書ていしょと堀内ほりうち貞じん乃の不呈聞ふしんもん。事こと懲めが懲めがと宣あらわすをあぞ。四家老しやうらう也や仕つかはれ。但ただし其その書かと披ひ見みて、欲ほむと太おほきよよび財ざいて注進しゆしんの趣おもと義成ぎせい

主ぬし小字こじえああぐぐ。義成ぎせい感かん悅えつ笑わらうもや。後あと隨つづ即そく荒川あらかわ清澄きよすみ。大照文だいしょうぶんの使し役えき三名さんめいを差添さしだて、龍田殿りょうでん老お侯こうへ獻けんれ。又一通いつう、稻村いなむら四家老しやうらう達だつ相あわせ達たつて尋たずねまよまよあふ。御送骨ごそうくの事こと、八犬士はっけんしの事こと見みもゆゆもせせ。如ごく詳くわ小字こじえああげげど。余よ餘よの又また箇か様よう々々と示しして書か翰はんを遞たま與よ。紀き二六にろく門もんをあらぬ果かくて快船かいせんを央おひうち乗のて安房あはと投なげて走はしまます。折おりも順風じゅんふうをうれ思おもひ。逃のが草くさく次の日にち稻村いなむらの城じゆうを届たまることを遁とお即そく、大照文だいしょうぶんの注進しゆしんの呈書ていしょと堀内ほりうち貞じん乃の不呈聞ふしんもん。事こと懲めが懲めがと宣あらわすをあぞ。四家老しやうらう也や仕つかはれ。但ただし其その書かと披ひ見みて、欲ほむと太おほきよよび財ざいて注進しゆしんの趣おもと義成ぎせい



まよねらく其  
建立して毎量山延命寺と喚做大客歲のす。去年落成を候。智識の名僧も歴々有  
矣。初祖の住持は一箇の看、王と衆徒四五十口。取置の故に大山寺より先靈廟  
墓と。子孫の墳墓も尚改革へ。今番不測の義烈院の送骨と迎され、瀧田稻村の兩  
侯の墓も件の寺へ遷る。因て、大大徳と聞出。鼻祖として住持を。昔と猛可不定められ  
候。墓中を改葬し。改葬の儀式大なる賊で延命寺に入れる。安葬の姿を以て。且廟墓  
境墓を。件の寺へ遷る。因て、大大徳と聞出。鼻祖として住持を。昔と猛可不定められ  
き事ある。貞介則の談が依て白瀧人偶。まあせけの間話体題。全程が白瀧。  
臣松倉木曾氏元東六郎辰相と首を。狂頭。有司十數名並瀧田の老僕とまかせられる。老黨  
有司近習の毎東峯崩。小水門。目鰐船。日六郎と共に通計四十名。當山看守老僧と諸寺院の住  
持の参聚。皆幾十名。或成本堂在り。或三門小立。櫻板を迎める。門前か。社表あ  
て。且三箇組。一番を桶表く。又高張の挑燈五六對。三門より本堂小至るまで中黒の花錦染做  
蓮の金池の水。生身。錦繡打敷眼。赫文。打鳴。鉢磬耳。噪。供物の餅。五色と雜へ  
華慢。天蓋美麗。佛の御前。臺盤。燭台。鶴車。畜生道の呵責を知。尔く。華首。金  
何云の獅座。香爐。数脚の机案。經卷。大冊の靈籍。見基。在。現美を盡す。善を  
盡す。通の事の光景。細小名狀。看官の餘を查考が。却説靈枢。申牌時候。延命寺  
入。本堂。居。衆僧並。眞如照丈。们。守護。退。大。客殿。請待。され。大功。誓。是。是。是。是。  
看主の老僧。看茶の礼。尔後松倉氏元東辰相。大と別席。招。而。兩侯。仰。侍。君命の趣。光  
法衣。白輪。交衣。被。一具。賜。兩椿。事の大功。猶懸。賞。せる。登時。堀内貞介。不服。更。是  
列席。而。中。在。美服。大の本意。あ。况。本山の住持。さ。ある。脚説。多。多。思。龍恩。

辯ある由事され。終て退つたり。次に蠻崎照文。召れて不服を更り。兩館の仰び難からむ。亦是代香使の勤勞と靈柩の守護と譽をせよ。回目あまもま。下。有條程。讀經を促す。鐘鑼と响く。之。大法師ハ。左布施。袈裟法衣。身裝して。威儀嚴然と。看玉の法師を先ふ。裏。餘々と。本堂を來ませ。其日。衆を參會する。大寺の住持諸寺院現住の老僧们。齊一迎て。檀讓あり。大云び讓の。後。道す師の席ふ。着一ぶ。役僧磬とも鳴る。衆徒經巻を繙ねて。讀誦。時をぞ移す。余程。五家老諸有司。照文們。左右二側。星列。礼服の袖を連ね。罷。男の有司。近習の。毎。小水。東。峯。銷船。ら。漏。若き。相勸え。事嚴を。見え。事。道す師。衆僧の所作。と。端。急。事。省。て。至。具。あせ。余。間。日。暮。て。廻向。燒香。果。と。躬。靈柩を。抬。か。て。準備の。空。を。斂。や。あ。セ。番。面。们。幾。名。ク。と。缺。聚。こ。夢。て。殯。し。あ。る。程。靈。入。蘭。て。星。班。す。曉。天。未。き。未。ける。然。ば。件。の。殯。の。遣。遣。か。慢。幕。幕。打。三。守。屋。第。番。士。雜。色。幾。名。上。隸。られ。交。代。成。る。す。べ。あ。の。夜。の。月。未。命。と。出。る。張。燈。蕉。火。薺。火。さ。本。堂。より。塗。路。ま。處。す。未。だ。日。れ。那。不。夜。城。も。係。や。と。要。國。主。威。德。仰。す。大。法。師。ハ。廻。向。香。果。て。三。家。老。

富貴を看官思ふ。有縛れ改革の法教。大日堂。寺本巣あけ口。伏姫の木主の。大寺より遷  
え。延命寺の祠堂。新製。屋を居らば。現状。姫の烈女。おもく死く滅ぼ。不動の  
れんちをたる。

靈地。憚がまし。神を做せば。

作者。総惟の裏。在漫。獨語。約莫。遠第百三十回。都。平和の話説。笑取。是處。看  
亦。兵士。何と。前。神佛の冥助。大の奇功。是。不加。里見。兩侯。純孝。太公。這  
頭。省略せ。云。龍頭。蛇尾。柳。和漢碑。説。遊。諸才子。新。臺。奇。呈。看  
官。愛。懽。條。作者。筆。找。又。話説。平和。看官。ま。條。作者。難。義。文。場  
さ。され。う。と。遮。莫。是。寫。平話。新。奇。倒。變。原。由。是。旅。人。壁。名勝。舊迹。山水。佳景。い  
疇。も。親。欲。先。者。平和。驛路。險阻。山海。車。麻。名勝。舊迹。奇。絶。任。景。い  
遊。か。と。き。處。一。况。這。改革。條。如。上。未。金。佛。供。類。相。距。三。四。回。亦。復。佛。事。あ。れ。  
更。復。免。犯。ま。ら。禁。り。容。易。及。思。大。罪。作。者。苦。心。後。も。知。り。そ

並。て。ま。る。ひ。飲。宴。要。見。敷。言。る。村。翁。野。客。醒。え。と。聊。自。評。附。ふ。そ。

却。說。改。葬。の。心。闘。の。日。大。稻。村。の。城。出。召。れ。兩。館。見。參。折。義。実。去。當。城。在。あ。る。お  
特。見。一。時。小。喜。果。大。ホ。鄉。食。膳。賜。昭。文。相。伴。近。習。母。母。給。侍。不。連。曾。待。母。間。を。き。り。  
齊。畢。更。ホ。又。大。別。室。招。して。老。侯。安。房。侯。同。席。坐。母。母。敵。面。談。身。邊。大。氏。元。貞。乃。  
智。畧。及。那。惡。僧。德。用。們。結。城。の。驕。臣。經。棟。素。賴。惱。利。ヶ。斯。虐。の。顛。末。櫻。不。注。進。も。少。え。の。後。又。  
照。文。お。听。詳。き。こと。ゆ。就。中。那。十。八。入。道。淨。西。と。あ。子。影。西。の。忠。孝。古。未。稀。き。美。談。へ。畢竟。那。  
親。子。の。陰。徳。と。和。僧。二。千。餘。年。の。勤。行。勇。猛。精。進。陽。報。地。藏。菩。薩。の。利。益。あ。け。然。が。當。家。ふ  
宿。因。深。る。大。全。備。の。招。會。も。不。容。易。か。渴。望。年。と。累。か。ふ。他。門。より。肩。負。易。か。先。君。の。御。送。骨。  
狙。合。名。刀。と。家。裏。小。せ。れ。る。ま。ひ。何。事。欲。奈。優。志。大。功。昔。の。愁。償。ふ。猶。餘。り。あ。又。那。結。城。の。禍。鬼。と。  
あ。成。朝。良。將。あ。戻。せ。又。一。朝。小。鮮。か。う。是。意。外。の。歎。ひ。且。這。回。大。士。中。途。留。め。光。燭。送。骨。を

卷之三

俱一もあくせへ事序次もて我意ふ稱す既安房殿とくふ商量あるる。今日より法務ふ暇あるん  
照文と共に。穗北卦にて大吉を迎へ來よかと懇切不課去。大法師阿をたき額衝る頭を  
拾へて御誕農うも。羨りて又。室僧原是何もの人乎。然て御褒賞預らんや愁みぬ。も昔做  
た罪障を許され。あくを回目。事危繁修。安榮至。西館の脚盛徳。伏姫上の神靈擁護及  
行を良足。見る。ハ所以。と意示。を義成主推禁。然きひそ。唐山。相似。例。那唐朝の三藏  
法師。渡天の往還。十二箇年。約莫十萬八千里の逆旅。と凌。雷音寺。經を受ける大功あり。太宗  
其首途。と歎感のあ。他を弟兄。不擬。御弟と稱。貞。あ。達。莫。そ。十萬八千里。遠。と云ふ。  
投。を。方。あ。和。僧。一。旦。散。失。る。八。顆。の。靈。玉。八。個。の。賢。者。聚。合。て。當。家。の。寶。貝。不。要。故。大。功。ハ。三。藏。法。師。ふ。讓。る。う。も。あ  
ざ。う。不。有。や。無。定。め。る。義。院。の。御。送。骨。と。想。名。刀。さ。推。方。て。が。う。取。あ。け。功。ふ。功。を。累。絆。  
奇。特。壁。と。取。系。物。も。や。だ。我。太。宗。の。例。做。第。と。ひ。ま。ほ。允。る。年。齡。も。う。兄。え。内。兄。と。そ

廣雅卷之二

うぢちへ。○さへ え うちの不きをあがめへたあうと不 それもひだり けり  
生べ路次遅滞を障りあるべ。且那穂北へ忍圖る敵の城へ遠くねは是も亦憚りあるべ。大士  
参聚ひて後ふ格式を定められ。併當の多寡もいづる。這回は往復取手を便利るべくはる。といへ貞初  
沈吟して寔ふそ談も謂あり。然べ先度の例を倣みて究竟の駿兵十名と行裏帳を持て奴隸五七名を  
足る。大歎とひと義実主听ぬ。義成王ふ寔を寺主、大を ク。とへ よくおれあざ  
仰ふ、大の歎ひ義で白濱の武藏へ赴く。便路をいへ照文と共に駿之解縋と仕え。御改葬の首より法  
磬不遑むろ一々伏姫上の墳基を。まづ辨をせらび又願ひ稟さまに。ひりをゆめひりど先要緊る  
る大士而を果あひと。兩侯俱ふ點頭ゆて。その美志をあはべ。明日照文ふ駿兵伴當と從て其許  
遣え。俱ふ解縋とひそべ。もの美の貞ひ有司下知と。宜く賄ひぬまを。と御ふ大家額衝て。僕ふ言葉  
を稟しけ。當下義実主後方を。刀架ふ置れる。粗分の名刀と食を杭て。義成王ふ寔を。大月像小  
月像大小の両刀。當家相傳の重宝矣。小月像の富山を。大江親兵衛が大功の賞と。他ふ取せり

はれの面内の内中。一刀剛よりある事先考御送脅の這組公の小月像を優ると遠慮。下月と相共背後猿猴  
那組代より遠き事共食を食ひてゐる送刀ふ因あり亦縁ゆ表装の好みもあらん和殿の隨意左  
右もあらず身の衛がありかと解示して遞與ゆ。義成主の遽く膝を折り受食みて帶て歎びを  
嘆く。口誼の看官猜きべ。倭而大い暇をもつ退り去るをある折兩侯より衆徒の衣料を謂五十反  
布卒友を賜ふ。旨を仰り。貞む則業と後ふ延命寺へ遣ける。折亦照文を數度のめ使の賞  
与く。秩禄と増賜り。格席を登せらる恩命送漏きり。今程ふ照文ハ君恩と并。龍田の宿所へ退る。  
又起行の準備と整次日累兵伴當と從へて延命寺へ來て向ふ、大法師ハ然る準備をせし時を卓  
坐して方丈を用談せらる。等々され。主僕煎茶夕餌の管待ゆ。倭而至宵二更の時候。白瀬  
舟篙工每が風ひと佳と報へ。大家ひとく立突く。大い個の沙弥ども俱せし。舟も脚の打粉を。笈を  
搭駄と錫杖を衝鳴りて。俱の港口ふ卦。主僕別れて準備の船二艘を兼け。這船團主の番船  
れ。皆究竟。篙工每舟且追風。見れば波濤上安ららず。明日未牌の左側ふ両團河ふ漕入で宮門

傳九輔卷





種が袋の程ふ飲飽り來る。食は龍酒壺ヨリも大家肇て星を見て、慄懾可乎。別路ふ心を用ひ交遊の情義を感せぬよりなり。然がゆく者陸と向ひて離別の口誼ふ皇ある。目送る者水際不立と猶再會と契んと欲まよ。船の舟も岸も離れて、隅田河さて漕下を招かし弱蘆の聲琳々子鳥もち友を思ふ。憂愁とあれど飲びのあれば世の類矣。越ふ八個の俊傑と八箇の灵王共侶ふ串に大法師の功德の年をゆす。御ふ飾る錦の袈裟をも緹染法衣今もかも。持敷行脚の打粉の身と雲水ふ儘より追風ふ競ふ快船の身を取つ。澳津波立身も高く日が暮て。甲夜闇參ら星光水ふ映るを董。疑れぬ短夜の明ぬ程ふと篠工每が建連ねる艤ふ楫よ械と腕の馴字。力と勤めといそをけり。音響ふ大江親兵衛が西國河より解纜の折と勢ひ相似て。事情へ同どうむ所也。那里六魔鬼を討つ艨艟。這里を弘誓の蓬虖。法師も重見の寶貨船。ハ行の壁打出の檍。簾蓑笠隱れる名と頗る天の下俯仰瞻き。上總。磯山傍ひ水長鳥安房の白濱皓と。明やく時候ふ風恬て。港口ふ船ハ果るを。自評云。這前後二回。上もいふ如く。參異平和の事も。且前回より此日至て商議の段も。されば看

官數く思ふもあん。遊莫皆是。有要の事。そ。内中不状線。す。襯染す。後不思ひ併さへ。約莫作者の筆労ひ。ヨヌ。平和の話説。ふ在り。且看官ハ。業知。ゆ。反て本傳中の人を。のまざ。知れ。亦復解ざること。ゆ。其頭へ並て花見故。小筆。洗り。硯乾。ひ。弗貞心一倍。き。め。と。諱々。と。聞ら。是人を。さえ。く。其。頭。花。見。故。小。筆。洗。り。硯。乾。弗。貞。心。一。倍。き。め。と。諱。々。と。聞。ら。是。人。を。作。者。の。苦。界。と。本。傳。處。ふ。お。の。類。す。実。不。已。と。ゆ。ざ。の。然。を。知。る。左。も。右。も。綴。り。裏。と。看。官。ふ。や。獻。ね。ひ。か。た。技。ぞ。唐。山。元。明。裨。史。の。大。筆。彼。六。才。子。と。數。ま。氣。も。思。い。を。潛。る。處。を。が。

第八回 八行の靈玉光を良主に増す

第一百三十九回 九歳の神童氏と花嘗不請ふ

離合時。ゆ。窮。達。命。あ。然。然。而。大。照。文。が。大。士。と。迎。の。快。船。通宵走。そ。詰。朝。安。房。白。濱。船。て。來。程。不。延。命。寺。よ。し。置。る。千。里。候。の。道。人。が。報。知。せ。ん。本。山。の。役。僧。五。七。口。と。稻。村。の。城。よ。遣。れ。な。雜。色。奴。隸。さ。へ。ヨ。ヌ。駕。馬。頭。上。お。在。り。登。時。大。士。六。大。照。文。代。四。郎。と。共。侶。二。板。傍。系。船。を。離。先。濱。の。沙。石。地。下。离。程。穀。兵。伴。當。別。船。る。す。推。續。に。漕。寄。ら。せ。伴。と。缺。く。者。す。り。一。ふ。

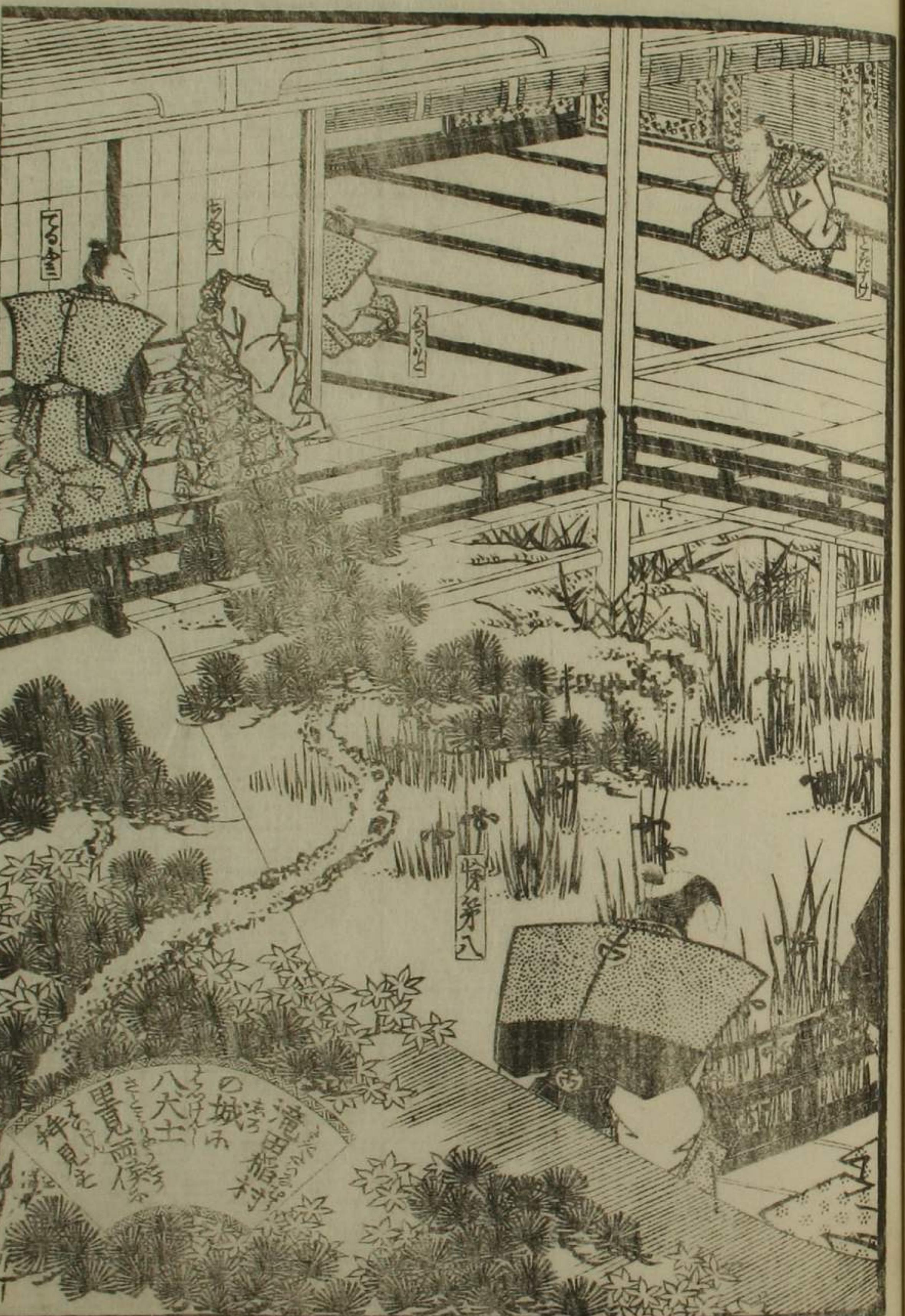
城。よ。お。車。け。人。の。數。殊。更。不。可。れ。是。よ。り。極。可。ふ。伴。當。道。最。晴。ゆ。ふ。熱。鬧。竟。旅。迎。お。向。り。往。而。犬。士。の。人。き。と。勞。ひ。俱。て。延。命。寺。ふ。赴。け。客。殿。の。請。待。せ。れ。早。飯。と。羞。あ。る。あ。餘。も。曾。得。大。き。ゆ。み。是。よ。お。稻。村。澠。田。西。所。の。城。よ。大。士。と。迎。接。の。頭。人。せ。屋。景。能。船。貝。六。准。備。の。人。馬。を。領。既。不。延。命。寺。よ。来。て。別。廣。不。在。權。早。く。て。件。の。兩。個。の。頭。人。へ。大。照。文。代。四。郎。と。共。侶。二。板。傍。系。船。を。離。先。濱。の。沙。石。地。下。离。程。穀。兵。伴。當。別。船。る。す。推。續。に。漕。寄。ら。せ。伴。と。缺。く。者。す。り。一。ふ。而。會。至。兩。侯。の。命。と。猶。よ。其。言。の。趣。大。氏。の。每。風。波。驚。教。で。召。ふ。速。應。あ。と。神。妙。惠。昌。船。出。つ。れ。疲。勞。の。え。危。よ。の。年。來。も。お。か。る。今。日。先。澠。田。ふ。詣。て。明。日。稻。村。ふ。參。よ。是。未。申。所。從。の。人。馬。遣。ま。る。遲。礙。走。よ。と。演。達。を。當。下。大。士。們。の。廣。と。避。け。辨。聽。を。俱。と。答。稟。告。う。兩。館。の。恩。命。冥。加。あ。ま。う。と。倒。ふ。後。安。と。親。兵。衛。と。除。く。の。外。臣。等。ひ。ま。二。个。の。功。高。不。非。如。隸。を。變。べ。と。騎。馬。を。く。保。當。と。居。ま。れ。ま。ち。鳥。嶺。が。く。ひ。む。大。長。老。の。同。意。要。扶。歸。も。迎。接。お。東。嶺。折。兀。自。行。脚。の。打。扮。す。然。ど。見。參。の。礼。服。へ。聊。准。備。体。と。の。保。不。召。俱。せ。られ。ゆ。と。願。ひ。ある。と。辯。ふ。と。景。能。う。ち。听。て。否。あ。の。義。の。老。侯。の。御。意。よ。う。お。る。御。妙。休。真。ば。當。館。と。ま。せ。ど。辯。せ。

かく。ぐるわだ。あらぬと諭をも。大も俱ふ大士と諫り。剛才遣使達が拂僧と疊崎燒雪。  
兩館の脚意と偽へゆき折拂僧を乗輿を。大士と俱ふ參うべ。とあり。本意をねむ不敬の  
罪を怕れて身差仕ひぬ。然べ御高ぶ拂僧が更ふ穂北へ赴きて。各位を迎へ折も行脚の打拾す  
矣。二千餘年の宿望成就の客。青と裏あ。既もぞまあそへ送ふ一所不往へ。行客の折と向  
か至。呂尚望。が渭濱か文王と同車の例を做り。已と枉て君の命。従ひもとまは不敬事む。あ  
ざ。爰を思ひかども。と悄語示せ。大士们へ俱ふ曉得。後悔も。謝そ貌と改め。然而景能すら  
向ひ。畏りとぞ。上票。一。言果て八犬士。復よ別席。退坐。衣裳を更め。ほども程ふ。伴當聚合  
し。と。ゆき。大財。と。お閣。小立。者。大法師。と。轎子。と。寺格の伴當。甚く。丈八犬士。一人別  
隸。られる。兩個の伴當。若黨と鞋奴と申し。都て二十四名。玄関の邊。在す。あ餘。乘馬。足。拂  
十六名。並葉鎧。と。柳筥。傘。雨衣。林笠。坐草圓。坐を。ど。持る。伴の奴隸。五六名。盛三門の外  
面。か。わ。あ。中。親兵衛。が。衆馬。今。番賜。駿足。あめ。と。裏。當圓。を立た。折稻村の城  
幸。既極取吏。預ける。那青海波。やれ。含咲る。何とも。いね。浮雲啓。天日。見る。  
時。ふ。取り。是も。亦。面白。あ。り。と。思ひ。下景能照文。大士们。都。参着。の趣。館。ゆ  
え。あ。ん。と。別。ぞ。稻村の城。赴く。ふ。自身の伴當。と。ね。那十個の夥兵。を。肩。八犬士。不。從。ふ。よ  
代四郎。が。伴當。も。裏。風波。病煩。し。上總の木更津。よ。還。り。奴隸。と。俱。二三四名。篠田の  
頭人。き。先へ。立。て。該。良。も。勇士の馬前。出家人の立。に。相応。一。立。そ。故意。後方。從。ふ。  
代四郎。と。貞六郎。が。各。伴當。と。領。て。先。找。三。門。より。坐。ゆ。く。程。ふ。八犬士。も。推續。と。準備。駿  
馬。ふ。うち。跨。る。ふ。仁。義。八行。の。次第。小。做。て。第一番。則。是。大江。親兵衛。仁。他。大士。を。招會。使  
使者の。一人。され。御道。す。と。兼。は。ふ。宜。く。字順。も。亦。か。の。ど。く。され。大家。強。て。他。を。推。て。ゆ。行刑。を  
定。め。次。犬川。莊。義。任。犬村。大角。礼儀。犬阪。毛野。胤智。是。を。仁。義。礼。智。四行。の一  
隊。と。是。より。下。十。間。許。故意。横路。を。咎。と。相續。却。第五番。大山道節忠與。大飼現

八信道大塚信乃成孝。大田小文吾悌順。又元老忠信孝悌四翁の一隊と云。あらわす甲ひあらわす只八翁の字順不諱ある。是より又二三十間引下りて、大法師の納代包の轎子ふうち乗る。左右の麻の社袴の股佩結くる。兩個の寺侍と所化四名相従ひ一對の柳筥ふせうきあらまくす。杏龜兒兩衣笠童をど持る。伴の奴隸猶ヨリ候べ。然だに八個の大士們の馬上優不刻を計。孰も清祥二十二則後モ。面白く次第美いを。又筋骨逞くて身材を巧めり。現鼻直く口横される。人面異乎不似。も美貌醜顔人まことに中玉成も杜支們ダ。今青雲の時をぬ。前駆後從の伴當ヨリ徐行く馬上の光景。這頭ふぬえだ杜窓ふゆえだ路ふね東良賤男共のうち驚ひ。訝り覗て歩を停め。みるけり。恁而八犬士。代四郎貝六郎と先不辛。引れて瀧田の城ふ多。第二の城門を馬より下モ。俱不玄関ふうち登れば小水門。目窓内。よ連で遠侍小造る程か。大法師も續けて参り。代四郎と貞六郎は俱不席末小在り。すくふく逢せあべーと。躊躇奥へをあらけ。その折瀧田隸の老黨有司們も。犬赤對面を。見参の式を備達。さて廣書院へ案内を。全程八犬士。晋上方五明扇並ぶ大刀馬代を。各前ふ閣にて。謀てもなる。姑且て義実、主六上壇の間出。諸の御ふ着物が貞翁と清澄の壇前。左右不倚り。近習東峯崩三の佩刀の役史を。左後方を。後方を。登時瀧男老黨の犬士們の姓名。一個々々を告げ。且晋上方五明扇並ぶ大刀馬代を。見くらで來て。件の扇子。大刀馬代を執接て。御前近く進し。義実から。扇。犬士們の席を

賜を。先兩茶の礼を仍ほある里見の家例也。年始方祝壽及初見參の折りど親戚の人々  
家老城主のと毎年、最初ふ薄茶と、王君不まわくその人も賜るを兩茶の礼と信へる。かの如  
に毎年金を賜るす酒一盃をもて、三度の礼も片茶り、王君のままで、あら人へ賜ひ。金も  
盃も賜流一中受戴にて退く。中開が中か今八犬未兩茶の礼を仍つゞき。人みな是上品を榮  
を。茶礼畢て、義実主の大士を身邊近く侍しと含笑を以て宴を。汝門ハ予が外孫小櫻谷を  
よりのとへど、我身ハ久の年來退隱の翁也。今安房殿と閣にて供物を奉對面も。那人  
意不從て、先見參の試檢へ却感心のゆゑも言はれ、親兵衛が二三の大功也。世ふ有る事無く。  
开へ仕ての上也が、其外ある。這七名のまざ當家小參らをして信乃道節ハ甲斐の猿石モ、濱路  
姫の窮陥を救ひ、今大功也。又毛野莊、大角現八小文吾們も結城也。那僧俗の惡懲  
を。反ておも勍敵を一人も殺戮せ。且先君の御送骨も異乎當國を入れなりしも莫大の

勲功へ親兵衛が富山の功名及汝門七名が猿石結城。箇所の智計功名。俱小當家の與ゆて  
ひま仕さう。己前不在り。今也八雄満足を。招余応ト。お地頭聚合て、俱小安房殿小仕ね。楠家  
八臣新男四天の優しく。懲りかぬ。各忠勤と盡ねと懇切と。譽慰めて、金と賜む。恩命例もへ  
かね。八犬六俱ふ。唯々。下て言葉と画示へ。獻酬三度。及時一人別々大方一口孰も價十金あり。  
自食と賜りけ。ある式。不時。積り。祝壽。す。下く果一。大法師と召され。あら折蠶崎  
照文。由稻村より。かう。まわる。と。写う。り。俱不召れて見參も。登時亦義実主。大法師の功德。誓里  
照文も亦招覧の宿命と。果す勤労と。誉ませ。就中延命寺ハ二十餘年。信心積ら。う。せ  
りく神靈佛陀の真助屢經驗。遂に當家の宝貝す。八賢者と吸引。今日奉季。と和漢の  
傳。おへり。と。兩茶の礼を。仍ほ。尔後亦姥雪代四郎と召され。て貞仰仰。仰。姥雪代  
保老て衰。金百萬の遠。を往復。道筋。们的。八犬士。不俱して。かう。参り。け。その功。鮮。小。う。と。  
恩賞。由稻村殿。で。必。御沙汰。あう。ぞ。先の旨。と存せよ。を。片茶の礼を允され。恩命送。



隈も鬼身の程々過がる。就中代四郎へ感涙を禁じ難て鬼りとぞ稟うけ。尙而見參の不儀畢  
そ。兩個の近習。左右より捲る翠簾と垂玉程の義実奥不退ひ。大家ひとく額樹て姑  
且目送り。然而八犬士と首坐。大照文及代四郎不至るまき。各二家老よ棧に向ひ歎びと演恩  
謝して俱不遠侍へ退り。少程ゆゑ入別席よ招ひせられ貞乃清澄瀧田の老黨某甲们列坐  
すまち。食事不<sup>レ</sup>。則仰を仰。大氏の毎並小十一郎代四郎ハ明日稻村殿不参ト。館不見參ト。を以て延  
命寺の寺不退。明日稻村へ參會。犬士們の休憩所立出されて當城内不在。只今御飯を賜  
え。其著を拿みて退姿。仰渡させゆ。大家羨り恩と特て共侶不能り。喜程不給侍の母案  
内ぞ。又別席。御食饌と羞や。大士と照文ハ同席。大と代四郎ハ亦上下一間不別氣。甲ハ  
出家人衣。其饌と魚肉用ひ。二ハ格式異。犬士不列ると允されぬ。膳部ハ疎きへもある  
が。中酒の折。老黨若黨那遣心を屬て不<sup>レ</sup>。薦め。因懶食を奪く事果。又禁茶を賜ひ。果  
子と賜ふ。姑且して八犬士ハ老黨有司。小君因爲<sup>シ</sup>。次びを演て能立。程ハ、太代四郎も立て來る。

、大犬士們から向ひて明日稻村へ參會よ。當時令を契り相別れ。白濱人から去。照文。某老侯也  
御要あらゆえ。獨君所不留意。遠侍<sup>シ</sup>。候り。御食照文が犬士着到の注進の稻村殿參り  
折館の仰られるあべ。听せぬとてあや。余程ハ八犬士。代四郎と俱不退り。出で休憩所不赴く。今番  
猛可不造出され。八犬士同居の室。第二の郭の邊不在れ。妙真代四郎們不賜り。宿所と相距る  
と。遂<sup>シ</sup>。且照文が屋舗。其首より猶這方不あらず。然ハ八犬士伴當の從隨<sup>シ</sup>。相偶して先照  
文の宿所不赴し。園<sup>シ</sup>。呼門来。執接人不名簿を遞與。招會せられ慰勞の口状。俱不欽び<sup>シ</sup>。舒<sup>シ</sup>  
の。照文是<sup>シ</sup>。歸宅せられ。不<sup>レ</sup>。但<sup>シ</sup>。退<sup>シ</sup>。去<sup>テ</sup>。俱不妙真が宿所不立寄て。先<sup>シ</sup>。の安否<sup>シ</sup>。尚<sup>シ</sup>。とも。余  
程不妙真が里裏<sup>シ</sup>。親兵衛<sup>シ</sup>。別れ日より果<sup>シ</sup>。早<sup>シ</sup>。逆旅の安危<sup>シ</sup>。の。不<sup>レ</sup>。不<sup>レ</sup>。思難<sup>シ</sup>。精寐不<sup>レ</sup>  
あ。晚<sup>シ</sup>。毎不枕<sup>シ</sup>。安<sup>シ</sup>。せあり。不約。一面有餘<sup>シ</sup>。經て。親兵衛ハ西園河原也。館の御使蟹崎生<sup>シ</sup>。料  
事も逢<sup>シ</sup>。と<sup>シ</sup>。隨即素藤<sup>シ</sup>。再<sup>シ</sup>。往<sup>シ</sup>。與<sup>シ</sup>。その宵快船<sup>シ</sup>。うち乗<sup>シ</sup>。上總の館山<sup>シ</sup>。推寄<sup>シ</sup>。城を拔<sup>シ</sup>  
妖賊麻鬼矣を悉<sup>シ</sup>討夷<sup>シ</sup>。又七犬士を索<sup>シ</sup>。結城<sup>シ</sup>。大庵<sup>シ</sup>。赴<sup>シ</sup>。ぬ。と<sup>シ</sup>。尔の日<sup>シ</sup>。も<sup>シ</sup>。と<sup>シ</sup>。

ここ  
这里へ歸る。妙真欽へ慰め。後の音耗を尋程。大法師が先君の御骨壺と腕をう照  
文と共に侶が結城よりかこむる。且白濱を延命寺。脚改革の事の顛末。及親兵衛門八  
個の大士代四郎と共に武藏の穗北より杖を住む。大法師の迎ふ事無し。うち水垣許在と  
名信具を以て妙真へゆき安堵。又來日と幾日も。きご知れど當城内に八犬士同居の  
為。そひ比より番匠們が猛可よ居多聚ひ。造り出さる宿所。遠くやの取程。日毎  
折々外ひかて覗る。樂しく奉じ。兩館の寵恩と仰げ。高に柿甘月屋の廣ゆき。否日數と重ね  
生。一向あ足らぬ間。造菓へ。昨日。今日。赤暁天。大士代四郎さへ。大照文と同船。  
自瀬舟。延命寺が着到の少え。隨即若侯不見參の為。今日當城へ召され。と云事。此  
事を今朝有司の徇知せり。又舞足の踏とて。知る。迨の詔。獨如真のと。音音曳。す  
單節門も。稍多ぬ。方の日の歎會。卷も。やがて來る。代四郎の歎故主道節。自餘の大士も。  
親兵衛。故御身所以ある御飾錦。有磯貝。花を添へる。元貝の下枝の甚數を取。

兩個の孫が新しく織麻衣うち被せもひと被れに俱して妙真が宿所を席へ向慰めを送ふ旨  
歎びに野進迄ト今咲く梅子よりも孫へ送ふ愛ある老女の心の親切が御食忘のを悔ひ老婦  
てとよひの届く架の鍋さゝきを孰て汚目足る金の蓋が被ケテ布巾を極食を洗ひ流へ昨夕の飯粒小  
桶の底が浸されて肥滿穴ある炊事不幫助ヨリ火焼鳥桶の擂金のみを現鶯刷匙を異  
名匠師の目細鳥目白厭厭早漬の茄子の小瑠理青鷗の醤口を搔くや辛のきく戴戴ハ筆墨買れ  
とさくつり。りやーまああああ。もうえへづき。きよふくさうをまう。つめつづ  
鷄頭海苔萌生の豆鳥筍の皮とむく鳥。庫物魚類介藻濱筍の目面と瓶詰をもん長  
蛇百足の日長を下晡ふるす一時候親兵衛小文五置節門の八犬士。奉外貢來學程ふ代四  
郎ハ伴當と走らる呼門奉。ようと告げ。如真に遠く立坐て内より用く座候。巻石傍ひ庭門  
案内せうる大士們ハ縁頬よそも登る坐席ハ綾八疊八個の賓客圍坐せ。座著着折敷の  
打籠魚昆布搗栗執具ひ卒と薦めて胆向心をうそ壽司。老女東道のき差配。廻り難言  
家も連りお鳴り。お茶と呼べ。音音们曳き姊妹へ俱不濡き。禪の端折返と拭掌。手禪

外と汲坐。金盞茶碗の八曜。六稔。ゆ月日星。今再會の折を以て。給侍も對の義姫即婚。欽也と袁一さる涙を遺る瀬中暖簾塞。はと俱生て來。累ね茶托。兩玉箇。試き茶碗。暦。又やうが。野の花。色香。薄。疎茶。迷。薦。道節。朝。額。衛。退て妙真の後方。一雨。妾時。寒力。二郎尺。親と慕。生出。奉。八士们。往。憚。孫の在。含笑。音音们。俱。其頭。坐。占。足。先。小文吉。妙真。向。向。絶。久く。大江の大母。卷。茅。芽。出。我們。上。結城穗。皆。モモ。蟹崎生。少。れけ。大。德。と。蟹崎生。穗。北。迎。渡。水路。走。今日。曉。天。船。百濱。着。と。保。皆。當城。召。老侯。見。參。宿。所。退。氣。親。兵。衛。乞。モモ。立。寄。大塚。大飼。行。德。以。來。相。識。氣。ひ。も。よ。の。餘。大山。大坂。大川。大村。四個。義。義。兄弟。訪。慰。見。と。翁。相伴。モモ。引。會。モモ。信。乃。現。八。道。節。莊。モ野。大角。識。モ。詔。及。

も。名。告。と。あ。皆。云。云。と。慰。れ。妙。真。ひ。を。り。落。不。の。ま。の。難。下。心。生。ま。を。兩。袖。を。顔。を。掩。を。俯。沈。む。と。親。兵。衛。も。亦。慰。め。而。喃。大。母。を。尊。裏。出。時。の。不。祥。也。憶。め。も。別。と。喜。そ。の。を。思。せ。ま。り。一。か。あ。禍。鬼。と。母。又。拂。半。上。這。大。兄。連。小。父。公。共。侶。咱。每。帰。參。の。再。會。竟。然。な。く。樂。か。ん。余。と。泣。ゆ。エ。ミ。と。お。れ。て。妙。真。す。く。涙。を。る。め。點。頭。て。开。ひ。あ。ら。ぬ。と。居。れ。と。查。身。の。顔。を。ア。ト。阿。沼。蘭。ケ。父。父。の。身。及。房。八。分。と。先。あ。胸。思。お。と。ら。う。も。亦。目。と。拭。へ。慰。ゆ。と。小。大。吉。親。兵。衛。歎。と。同。亡。親。の。あり。一。世。偶。安。簷。下。の。松。梢。瞻。仰。て。懲。然。支。父。も。亨。や。け。怨。風。智。信。乃。現。八。自。餘。品。大。兵。侶。今。之。世。不。免。家。尊。家。母。又。亡。妻。女。之。懷。大。塚。大。村。異。舊。巢。遙。八。百。日。也。越。路。あ。風。瀆。ち。都。疎。ク。鄙。の。離。衣。名。紀。哀。心。哀。衷。情。人。異。か。て。憾。以。至。憂。愁。か。何。勝。向。田。の。池。の。背。聲。鳥。夜。鶴。す。と。先。主。光。鳴。雌。雄。中。季。婿。婦。鳥。想。事。れ。と。幸。惜。音。音。と。更。を。單。節。们。有。係。る。圓。坐。不。一。者。尚。存。命。て。倚。り。か。然。ふ。せ。言。見。る。儘。せ。もの。世。間。少。短。人。の。命。を。胸。の。憂。也。撫。也。綠。復。幸。行。の。涙。一。筋。泣。ト

と。も。の。う。と。さ。あ。ら。の。う。一。と。さ。あ。ら。の。う。一。と。さ。あ。ら。の。う。一。  
と。頗。ふ。聲。を。呑。ひ。心。知。む。御。見。們。の。恥。氣。づ。け。ん。呀。と。寧。と。信。と。疾。視。る。二。母。親。の。眼。包。す。餘。  
西。雷。膝。珠。做。可。更。席。上。客。蕭。然。登。時。道。節。氣。獎。え。と。音。音。ヤ。ヤ。囁。く。と。聲。よ。  
始。母。幾。健。毛。慄。だ。う。母。耳。再。會。世。あ。是。死。死。と。死。死。死。せ。り。と。愚。い。汝。門。夫。婦。曳。革。革。  
節。も。恙。る。子。支。舉。ウ。奇。異。妙。契。其。黑。ふ。仰。う。那。完。無。要。ニ。世。カ。ニ。矣。人。狹。現。物。種。金。籀。鑄。  
と。女。世。の。常。言。へ。以。あ。る。孰。も。父。の。面。影。も。久。後。慮。か。り。矣。一。寔。不。忠。臣。孝。子。順。孫。義。姑。と。節。婦。  
わ。が。之。猛。火。の。中。必。死。免。れ。良。人の。身。後。必。達。れ。す。あ。り。皆。是。神。祐。不。測。の。錫。我。道。節。们。ゲ  
之。第。企。及。お。望。る。矣。宗。奈。敬。服。タ。タ。と。嘆。賞。え。信。乃。莊。み。小。文。吾。現。ハ。ミ。荒。其。山。宅。一。夕。值。  
遇。の。相。識。又。毛。野。と。大。角。ハ。今。番。が。初。度。の。對。面。見。れ。ど。送。ふ。そ。の。名。と。知。れ。ふ。俱。不。舊。見。識。の。思。ひ。あ。  
そ。皆。共。侶。ふ。相。祝。す。言。ヨ。昂。ク。ハ。蕭。然。き。一。席。上。熱。闇。あ。る。き。ふ。け。當。下。昔。普。ハ。兩。個。の。娘。帰。  
と。兩。個。の。孫。を。共。侶。ふ。卒。と。お。う。ふ。推。卒。と。找。考。大。士。们。ふ。うち。朝。ひ。額。と。衝。て。あ。の。日。嘉。會。を。壽。  
にて。却。道。節。ふ。答。る。す。寔。是。自。今。仰。の。ど。死。ま。ぐ。凡。老。们。が。身。伏。姬。神。の。冥。助。加。護。又。兩。館。

脚底也。乃於達先もて御持の下わるまゝ。實加あまつて本意を取れ。代四郎が物をも。使れまつて願へか。徳華をけよ。傷痛く思まれ。物休くともゆえ。とある道節をも。御前が其人の鮮謝一なるとぞ。功り人の量る賤かよ。す功も圖れめり。嘗せしも明君の善政み。と争何せん。昨日まことに落魄る。我道節が舊隸僕の當館ふ仕へます。同家臣ふる身へ則故主の面見也。係なり缺たまひ。誰う徳篇一。毎日と諭せ代四郎找ミ出で。ちの事ハ豫御教論也。馬の尾ふ附、蒼蠅の事ひを知り。却今日の覧參す片茶の礼え饒され。御恩あまて心裏恥く。寒ふ苦しみと。側もう妙真へ憶を詞の折衷。そひて舞衣をひき。口誼も一霎時閣ひ。且益と薦めまほ。とひと音音へぞえ。然て前より委の準備へ。聲てるお女中へ何て侍る。とひ立。立卑の單節も各兒每と推立。と。俱モ庵治退り。翌時毛野へ膝柏鳴りて。却忘れる。とそれ我們が伴當。今番上う隸まひ。御内の難色奴隸。まひ。這頭ふを置く。要す。まひ。喧れ立。と。大冢諾。と。まひ。心屬まひ。と。勞ひてか。ま金。こもと代

あらうめど。あらうともひと。  
四郎椎林下り否。伴當のものも小可あるうち。明日又伴當あるね。と時分を示して先の程皆還  
あらひた。勿論各位の駿馬。上の賜び。廐檻。若狭。廐奴。預けて林を飼まく。鎌柳。若狭。若丸。  
宿所へりそゆて。給僕們ふ處與ね。と云咲て。ひみつ。と報ふ。大家再議。及度毛野へ。吟く。點頭。  
宣定。老功。脱落。と。誉れ。大家うち興じて。俱。笑局。入る。折。扇。中。單節。か。庵屬。うち。繩子  
と。運び。ひそ。萬葉。盃。銚子。三四種。の酒。菜。白人料理。似。而非。塩梅。徳食。心ふ。  
義美  
か。ち。あ。も。の。冷。收。程。と。妙。真。か。老。婆。覗。切。か。扇。ひ。照。暑。紙。窓。意。群。て。入。蚊。燭。點。音  
音。が。壁。燭。臺。の。措。處。さ。中。坐。席。中。睡。と。武。男。士。の。交。り。現。憑。ある。大。江。を。今。宵。の。東。道。む。と  
獨。提。拂。う。姥。雪。の。雪。あ。わ。鹽。燒。の。堅。魚。の。切。肉。裝。分。る。八。箇。の。小。碟。沙。く。も。管。待。態。深  
ら。風。大。盞。不。と。困。ぐ。沙。量。少。飯。合。膳。り。煎。茶。の。土。瓶。何。も。の。馳。走。と。駆。て。引。よ。き。渴。く。隨。意  
袋。茶。碗。上。傾。串。糸。る。酒。盞。數。一。竟。酌。ふ。鳴。る。鐘。初。更。三。更。欲。更。廻。て。音。鑄。を。と。呼。え。け。り。  
あ。お。を。ま。よ。く。り。金。糸。る。と。も。卒。う。あ。登。時。諸。大。士。面。腰。正。と。俱。あ。妙。真。ま。う。向。ひ。欲。び。を。舒。別。を。告。と。妙。真。听。モ。禁。戒。も。大。士。们。固。辭。て

従ひ。すまや奉くひ。今番上より賜り。宿所へまき入らず。あふ園坐り與ふ衆も。夜釀に憚り  
意をわざ。且明日亦稻村の大城召れ。然むろの準備もあらず。身の暇を賜り。代四郎も懇  
辭ひ。宿所へ近路程良。腋子親兵衛をり。ゆえ諸君子も時々對面輒る。今宵ふ涯り。と余  
妙焉強難。竟至る意は儘せ。本末又告別事。外宿す立野ある。宿所は隸らぬ。數樸而二名。張  
燈と携て迎ふ名を知り。开て従ひ。丈間才一町の内す。登時妙真へ音音曳る單節門  
と俱え。傍よ是を自送り。代四郎猶後跟て其前を送り。僕而大丈。這新造宿所に入  
る。今早謀る。雜色奴隸八九名在。开て中より若黨西三名。遽く紙燭を兼て金剛を迎  
へ。這裏苟る。休息所とぞ賜り。廣ゆれば合宿の如く。客房や書院も。寢室浴室  
廁も。充家貿調度。皮物蚊帳。至るも。通て足る東西。すた。もの。才。かへつま  
をも。容易く。所為。東西にて。障。君恩を過分を。且畏と。且怒び。各枕ふ就け。短便  
あひ。明易。曉天。皆起。俱ふ浴し梳り。肩燈下みて。早飯を果。程。昨日の屏當。廿八名馬奴

卷之二  
參り、奉られ、大士が遠く不衣服を整て。各件の人馬を領て云の城口を繋ぎ折照文と兵四郎、伴當を  
坐す。坐す。但當館をも思ふ。賜の數を増て八人一別、札と申曾と拂ぬ。又饗食饌也。海醋野蔬種等の珍味と盡きを以て。式  
禮畢て義成主へ又氏元辰相見し。大士ま仰渡す。女們の内中大江親兵衛と。這回又改下總國

里見の四家  
先古記録  
載も居  
異同あり  
成ハシホ音  
坂印東九  
川是へ亥  
云松倉堀  
内東荒川  
是森秀  
不杉倉木  
姓ハ杏堂  
トキイ印  
東の名松  
人アカモ  
本伊万里  
見記一本の  
載き所不  
様るのみ  
寺主、大法師へければ大家アリヒト訝り呆れてトと同難う。登時、大ハ經卷を石上に置きて大士門が報  
せん。松僧ハ昨日稻村殿を退き折途を伴當と皆寺へ還り亦復行脚の打粉にて昨宵這山うち降り  
ちく思ふ折々便宜へれど氏元ハその子直元が家督と渡し貞介の男児存れ候貞住を増養  
嗣ゆて所生の女兒と妻えとて各致仕退隱の情願書を口呈りて義成懇禁させし饑の如  
アリ一がど氏元も貞介も請願して已ざりけれ。竟免ふとの職役を免除せられく。則直元貞住ふ  
親の所領を賜アそ。俱ハ兵頭小做され。鷹南権本、兩守城の頭人也。浦安牛助友勝と登桐山八郎  
良干ニ名を奉セ。館山城預。高宗逸友の故の役を。俱より總へ赴け。是後詰へ余程又矢士も當日  
稻村の城を退き折、大法師又相別れて照文代四郎と共に各人馬を従へて日暮まで滝田の宿所に還る。次  
日も未明より八木うち連立て大山寺へ赴く。代四郎を伴せて奴隸とくまく俱せん。先伏姫の祠堂へ詣ぐ。  
各香薙と献り更不不動と辞みまう。既て富山うち登りて伏姫の墳墓を詣る。空巣窟の内。一個の法  
師も麻の法衣を索ばず。石と机と結跏趺坐する。読經の蟬聲高響まこと見れば是別名。伏姫命寺の  
トキイ印東九  
川是へ亥  
云松倉堀  
内東荒川  
是森秀  
不杉倉木  
姓ハ杏堂  
トキイ印  
東の名松  
人アカモ  
本伊万里  
見記一本の  
載き所不  
様るのみ  
寺主、大法師へければ大家アリヒト訝り呆れてトと同難う。登時、大ハ經卷を石上に置きて大士門が報  
せん。松僧ハ昨日稻村殿を退き折途を伴當と皆寺へ還り亦復行脚の打粉にて昨宵這山うち降り  
ちく思ふ折々便宜へれど氏元ハその子直元が家督と渡し貞介の男児存れ候貞住を増養  
嗣ゆて所生の女兒と妻えとて各致仕退隱の情願書を口呈りて義成懇禁させし饑の如

姫上の菩提の輿と讀經とあ不在乎七日斷食の修行を果て竟還ん然要緊の折りが餘り。と經卷と食食抗らう戴ひて讀誦小他支きでえり。八大士代四郎們へ俱く感激して是言は。先伏姫の墳墓不花を建水と賄け皆跪て眼と因て拝し默禱お円誠を凝ら。俱く退ひてお邊境に大馬塚力二尺八分墓表を此秋と同々立寄て賄の花が天然石のぎを拂ひ水を沃びて廻向。當時を立草塚衣不ぞ。山蕨延て節立竹の縁へ耗る夏山蔭の剣不交する草の花は雨はも早晚不正鼓の跡。深山幽谷瓊松奇品出づふ親よりも年歴ち昔藤の俊成卿の歌ふあれふ夜も悲しき松風を絶え苔の下立え。心操ひとが大士們へ廻向を果て退ひ去り折道節立肩立。傳す義利の兄弟の墓碑立と送恨のと我必とせきと獨語さけば。明年七月二十條西主椎林下て建をと允へ。是事情を原る。那大功へ功あると造化の自然不本意と神の做せばる。亦後詰へ却説道郎們の七大士へ親兵衛と代四郎を御導せよ。最も峯上攀登りて觀音

堂ま參詣。身の重く折れかき。親兵衛と代四郎は這裏ま六稔とある。更懐きと思ひ出でて解ひ慰め餘の七大士豫め候事と見ゆ。見れば情景八入る。那谷河の前画也。大法師の尚少う。金碗大輔たる時八房の大ぞ數をもむ。その銚た餘と姫上と害しより。當時の光景想像を不痛快に。羅綾の袂蘭鹿財の裳深腹紅圍の裏み愛艶頗る。二の佳人這太山お浮世と捨て身の只單明一暮身のみに憂苦まそと推量る。懷舊の疾眼包不溢れて人人嗟嘆不堪さう。然べ今、大法師が七日の断食不退の勤行那舊迹す身を擲りて。肩も菩提を吊るね。做素罪障解脱の杜倫修道心更甚是も亦易く。嘩と考。日暮て瀧田の宿所は遠く。懲而又因次日。八大士早朝より。俱く衣服を整へ馬を跨り。伴當と領て白濱を。延命寺小赴ひて義利院の庵墓五十子方。法號某の院の墳墓を燒香來なり。看王の老僧と對面して各香奠をもあ。其里見家世の祠堂。木主と拜み。余の餘とも。またまた手を拂ひ奉る。されば。まことに。かの。おこ。ご。かの。まこと。それから。わざまざと。亦一日。洲崎明神役行者。品出屋及那古の規定參詣。那古の小文音が祖の庵字の地名。懷舊殊深矣。是より後も八大士左右の暇あらず。一日ハ照文の宿所へ招れて饗食。宿日を消し。一日代四郎を譜



便。是。昔。の。罪。と。償。ふ。足。る。の。然。れ。ず。堅。圓。の。生。家。既。今。や。不。還。俗。と。薦。る。と。も。の。う。か。と。乘。引。る。べき。  
ら。や。あ。ま。但。あ。親。子。二。世。の。忠。臣。反。て。後。ろ。く。み。ん。る。佛。の。教。ふ。稱。ふ。と。ま。も。陰。德。も。そ。陽。報。す。先。祖。  
與。ふ。不。孝。う。と。世。の。人。も。亦。送。恨。思。ん。因。て。一。向。安。房。殿。と。商。量。き。ふ。義。あれ。今。白。地。不。尚。試。ん。汝。们。各。  
各。所。生。の。二。親。ゆ。あ。る。惧。ふ。宿。因。を。推。え。伏。姬。は。是。宿。世。の。母。き。を。そ。、大。師。を。現。世。の。義。父。と。倡。る。と。も。  
以。え。ゑ。ふ。あ。り。べ。然。と。そ。汝。们。皆。大。を。そ。と。氏。ふ。做。や。又。是。自。然。の。妙。契。ゑ。今。ゆ。ち。他。姓。と。冒。ま。う。に。但。  
今。の。氏。ふ。私。稱。そ。古。の。姓。と。氏。ふ。同。ト。か。毛。ひ。へ。姓。を。改。や。氏。を。更。々。欲。ま。者。必。天。子。ふ。奏。一。毛。ひ。て。敕。免。  
あ。ふ。あ。り。が。乃。か。と。そ。い。ぎ。者。也。然。べ。今。俗。ふ。氏。と。い。る。い。寒。の。氏。ふ。あ。り。そ。家。號。み。れ。廣。字。と。之。氏。へ。則。源。  
平。藤。橘。菅。原。清。原。の。類。也。姓。へ。朝。臣。真。人。連。宿。祢。の。族。即。是。へ。壁。京。里。見。へ。廟。字。也。源。朝。臣。へ。  
姓。氏。ふ。今。俗。人の。名。と。同。家。名。寒。名。付。麼。と。家。名。家。號。廣。字。の。ひ。要。实。名。名。衆。へ。汝。们。氏。源。  
平。藤。橘。あ。の。他。も。同。あ。之。改。そ。金。碗。そ。俱。ふ。氏。ふ。做。ま。え。大。塚。信。方。金。碗。盛。孝。と。そ。稱。そ。  
げ。れ。余。ふ。後。元。金。碗。氏。今。そ。の。八。個。の。義。子。と。ぬ。子。孫。ゆ。不。異。そ。び。遮。莫。陪。臣。ゆ。て。氏。を。更。る。夫。天。子。へ。

願ひまつゝ者。例もどりもあらず。皆義実が孫とも。室町殿足利。ふ請宣さ。必奏聞せらば。もの  
爰汝門同意あらば。京師へ使とあらせ。甚麼をや。と向ひ。大士門。阿とたら。答難。沈吟す。今  
俗。皆庙宇を稱す。姓氏へ要矣。似。れども。族。另ち尊鼻を知る。氏と姓。あくのを。元を改る。  
大事の議。目今。内好歹を。冒。今決斷。も。あ。乞。不。も。危。と。も。く。思。心。と。へ。が。余。虽。堰。水。未。や。ね。も。  
詞。委。極流。を。道。節。一。個。膝。找。也。隨。即。答。稟。事。御。詫。兼。り。急。臣。八。人。宿。因。ふ。儘。と。  
舊姓を改め。金碗氏を冒す。義。恐れ。多。理。義。分明。誰。推。辭。な。る。既。勿。論。臣。も。一。時。生。の。父。母。も。  
本来の姓氏。る。矣。不。も。ね。ど。伏。姬。土。宿。世。の。國。う。そ。り。那。神。靈。年。來。臣。も。ぐ。窮。厄。を。幾。番。と。き。救。せ。な。  
ひ。神恩。蹠。然。と。て。疑。く。を。然。ば。そ。れ。貧。う。も。外。孫。ふ。擬。せ。れ。も。れ。御。教。諭。感。佩。付。く。且。臣。考。  
が。各。感。得。あ。る。靈。玉。の。处。と。世。不。同。因。果。の。義。兄。弟。名。あ。る。死。ト。し。悟。り。そ。竟。ホ。全。く。集。り。そ。當。今。妻。雙。  
賢。君。ふ。仕。る。と。と。浴。ゆ。則。是。大。師。二十。餘。年。行。脚。の。功。德。指。南。ゆ。下。ふ。よ。そ。て。有。慇。懃。是。大。師。  
亦。臣。も。お。宿。世。の。父。也。指。南。の。德。義。師。表。同。宿。世。の。父。現。世。の。師。表。一。身。粉。の。因。ふ。儒。と。義。父。と。

東。仰。師父。と。稱。え。金碗。正。を。白。日。せ。と。あ。御。詫。至。極。の。道。理。ふ。そ。と。思。ひ。ま。り。ひ。く。京。師。金。免。使。を。遣。ま。る。  
充。計。ひ。そ。願。く。ひ。氣。慄。憲。票。も。人。も。有。げ。き。誇。言。ふ。似。え。も。異。體。か。て。心。同。道。節。を。業。仕。れ。自。餘。七。  
個。の。義。兄。弟。も。同。意。勿。論。ふ。ひ。る。と。忘。て。左。右。を。戻。れ。信。乃。毛。野。莊。大。角。現。八。小。文。五。口。も。親。兵。衛。今。  
道。節。が。即。座。の。論。談。ふ。感。激。せ。れ。て。仔。細。ふ。及。び。皆。共。倡。額。擲。を。業。同。意。の。よ。を。憲。票。は。義。實。含。笑。  
點。頭。ゆ。ひ。安。房。殿。他。們。領。業。を。す。誰。と。使。ふ。遣。ま。る。と。問。せ。ゆ。バ。義。成。主。然。い。あ。の。使。節。へ。左。大。事。空。  
犬。士。們。の。内。中。一。兩。名。を。遣。ま。る。ゆ。ひ。と。答。々。バ。義。實。主。然。也。々。と。領。て。又。犬。士。們。不。うち。向。ひ。然。ば。今。番。  
室。町。殿。へ。す。あ。ま。る。正。使。史。波。们。の。内。中。一。人。を。ま。べ。誰。う。京。師。へ。赴。経。て。あ。使。と。よ。く。せ。め。と。向。る。詞。も。果。因。  
程。大。江。親。兵。衛。突。然。と。找。出。額。と。衝。て。喙。黃。毛。小。猴。子。が。年。も。才。智。も。勝。り。ゆ。る。義。兄。弟。們。を。うち。超。て。  
願。ひ。憲。票。も。鳥。詩。ま。べ。れ。ど。そ。の。御。使。と。小。臣。ふ。仰。付。き。せ。た。ま。か。自。餘。七。個。の。大。氏。們。年。來。諸。國。を。遊。歷。あ。る。  
矣。地理。ふ。細。ち。ひ。ぐ。小。臣。へ。年。四。才。の。秋。よ。富。山。の。洞。崖。ふ。成。長。す。て。あの。春。す。う。登。く。人。間。ふ。や。ると。と。ぬ。り。  
あ。が。當。國。安。房。の。地理。ふ。あ。む。い。ま。ご。知。ざ。所。あ。然。ま。と。今。幸。ひ。ふ。皇。城。の。地。を。踏。き。ぶ。見。聞。ふ。就。て。後。學。す。

とまくひつむ。を饒き多が。と思ひて請宣せ。義実主笑は。は。義成主を下す。安房殿へ思ひな  
を。親兵衛の智勇捷れ。身材も亦大人備え。童顔いき。耗せ。且額髪を。者。室西殿へ  
使。都の。本態不熟。身姿。身姿。他を遣し。と仰。義成主異議も。その義美。然ふ  
副使。十一郎。そ。ま。あ。げ。他四方不使。東方熟る。と。性謹慎。旨。と。常失寡。者。  
因て親兵衛願ひ隨意。今回。使を課せ。十一郎。もの。意。と。俱。不京師。赴。て。心して。親兵衛が。  
帮助。ふ。う。ね。と。宣。へ。親兵衛。欽び。ひ。ゆ。照文。忻然。と。席を避。て。ハ。犬。主。の。上。下。も。微臣。辱。を。使。と。奉り  
か。今。番。倘。漏。れ。矣。遺憾。の。ゆ。ふ。む。御説。一。期。の。面。目。か。と。宣。示。を。か。餘。の。七。犬。士。の。大事。の。使。の  
撰。小。本。意。を。漏。さ。か。童。年。う。親。兵。衛。不。超。られ。互。が。争。わ。を。為。不。皆。云。と。教。分。と。宣。示。せ。ぶ。へ。大  
法。師。へ。始。より。思。う。ま。面。色。を。空。ざ。る。像。く。默。然。ち。却。上。ま。め。る。ど。の。一。回。も。平。和。の。ゆ。せ。す。及。く。佳  
境。ふ。入。ち。ま。る。話。說。角。ま。る。も。楮。數。言。京。渡。あ。れ。ば。卷。を。更。て。亦。下。回。不。解。分。る。と。聽。ね。か。

南總里見八犬傳第九輯卷之二十一終

